

不幸な“ハチ合わせ”に



ご用心

指導●小野正人

おの・まさと 農学博士，玉川大学農学部教授。スズメバチの他に、ミツバチやマルハナバチなど社会性ハチ類の研究を手がける。『スズメバチの科学』（海游舎），『マルハナバチの世界』（日本植物防疫協会・共著）など著作も多数。

突然，ショック症状に襲われ， 一刺しで死に至る場合もあります。

ハチ刺されによる死者は，クマや毒ヘビによるものより多く，毎年，全国で20人前後にのぼります。特にスズメバチは，もっとも毒性の強いオオスズメバチをはじめ，7種類が日本全国に分布しています。

ミツバチでも，過剰に刺されるとショック症状などで死に至ることがまれにあります。しかし，スズメバチは体長がミツバチの2～3倍もあり，毒性もはるかに強く，また，ミツバチと違って，対象物を何回刺しても自身が死ぬことはありません。雑食性で，昆虫，果汁，樹液などを集めるほか，農作物の害虫である蛾の幼虫やコガネムシなども捕食する「益虫」としての一面もあります。最近では，環境適応力が高いキイロスズメバチやコガタスズメバチが，残飯などを求めて都会に進出しています。

生活の中にも潜むスズメバチの危険

千葉県，東京都を中心に，年間約600件のスズメバチ駆除を手がける小川世紀さんはこう注意を促します。

「スズメバチの種類にもよりますが，木々の中や土の中，軒下などどこにでも巣を作ります。エアコンの室外機や車のボンネットの中，外に設置された洗濯機の中にも作ります。洗濯物にスズメバチが紛れ込み，服を着たときに刺されたり，ジュースの缶に入り込んで，口の中を刺されたりする事例もあります。スズメバチが活発化する夏から秋までの期間は，個人で駆除するのは危険です。この期間に巣を見かけたら，自治体の担当部署や駆除の業者に相談しましょう」

症状は体質で決まるので，安易な判断は危険です

スズメバチの針は，もともと産卵管の一部が発達してできたもので，両刃のこぎりのような形状をし，哺乳類の筋肉に深く刺さるようになっています。ハチ毒は，毒へどやサソリな

どと同様に、血液中に注入されて毒作用をもたらす性質のものです。ハチ毒にたいしてアレルギー体質の人は、一刺しでショック症状（アナフィラキシーショック）に陥り、死に至る危険もあります。

取材中にスズメバチに頭を刺されたことがある本誌編集部員は、「突如、頭に激痛が走り、その場からはって逃げました。すぐに取材先の農家の方が病院を教えてください、大事には至りませんでした……」と、当時を振り返りますが、患部の腫れは1週間ほど残ったといいます。

30年近くにわたり、スズメバチの研究に携わってきた玉川大学農学部教授の小野正人さんはこう話します。「私は、研究や調査のなかで千回以上刺されてきましたが、じんましんなど激しいアレルギー反応は出ていません。ハチ毒にたいする症状は人それぞれですが、数回刺されて症状が出なかった人でも、突然、ショック症状に見舞われるケースもありますので、油断は禁物です。スズメバチが強力な毒針を持つようになったのは、あくまでも自分たちの巣を守るためです。不幸な鉢合わせを防ぐためにも、ぜひスズメバチの生態を知って、身を守ってください」

なぜ、夏から秋に被害が増えるのか？

繁殖期になってもおとなしいミツバチと違い、スズメバチは夏から秋にかけての繁殖期に**いっそう攻撃性が高まります**。スズメバチの活動周期を知って、駆除の依頼や注意喚起に努めましょう。



スズメバチと出合わないために

スズメバチは、むやみやたらと人を攻撃してくるわけではなく、巣を守るために人を刺します。そのため、事前にいくつかの対策をとっておくことが有効です。

●色や匂いに反応する

日本に生息するスズメバチは、黒い色のものを攻撃する習性があるといわれています。ハチの巣は、昔から人やクマなどにとって貴重なタンパク源であり、絶えずハチの巣は捕食者に襲われてきました。スズメバチの本能には捕食者の特徴である、黒い目や髪の毛が攻撃の対象として刷り込まれているかのようです。

特にスズメバチの活動が盛んな夏から秋に、農作業や山に入るときなどは、白い服装に白い帽子をかぶるなどの対策が有効です。また、スズメバチは整髪料や香水、化粧品などの匂いに反応し、近づいてくることもあるので、注意が必要です。

- × 黒い服はスズメバチの防衛本能を刺激するので危険。黒い帽子や整髪料、香水などもNG
- 白系の服や帽子を身に着けると、ハチに刺される危険性は低くなる

●春先に、早めの駆除を

春先は、創設女王バチが単独で巣作り、子育てをする、ハチにとってもっともたいへんな時期。この時期はまだ働きバチが羽化していないので、刺されることも少ないです。家のまわりで飛んだり、巣作りを始めたりするのを見かけたら、早めに駆除の対策を講じましょう。

●圃場の確認

土中や朽ち木の幹の中、草むらなどに巣を作るスズメバチもいます。畑で作業をしながら巣の存在に気づかないで近づくと、瞬く間にハチの大群に囲まれてしまうこともあります。めんどくでも作業の前に目視で確認して、圃場の周辺にスズメバチの巣がないかどうか、調べておくと安心です。

スズメバチから逃げるには？

突然、目の前に現れるスズメバチ。しかし、すぐに刺されることはありませんので、スズメバチの動きを観察し、慌てないで対応しましょう。

●急に刺すわけでは ありません

スズメバチは巣に近づいてきた人をいきなり刺そうとはしません。ハチにとっても人と対するのは命がけです。そのため、人が巣に近づくと、見張り役の働きバチが大きなあごを使って、「カチッ、カチッ」という警戒音を鳴らします。また、それと同時に、人のまわりをまわりつくように飛びますが、これも「巣にこれ以上近づいたら、刺すぞ」という合図です。スズメバチのそうした様子を確認したら、**1～5m以内に巣がある**と判断しましょう。

●慌てないことが肝心

突然、周囲を旋回するスズメバチの姿を目にすると、とっさに手で振り払ったり、体をひねってみたりと慌ててしまいがちですが、そうした人の動きがスズメバチを刺激してしまいます。

数匹のスズメバチが近づいてきたからといって、慌てることなく、ゆっくりと後ずさりするようにその場から離れます。

- × 走って逃げるのは厳禁です。数匹のスズメバチが刺しに来ると、針から警戒フェロモンが放出され、巣内にいる数十～数百匹の働きバチが追撃してきます。
- 元来た道をゆっくりと後ずさりすると、スズメバチを刺激しないで逃げることができます。

●ふらふら飛んできた ハチは？

農作業やハイキングの休憩中に弁当や菓子を広げていると、スズメバチが飛んできてくれます。これは、匂いに引きつけられて、餌を探しに来た働きバチです。人を刺しに来たわけではないので、むやみに追い払わず、静かにじっとして、スズメバチがいなくなるのを待ちましょう。

▶小野さんのアドバイス

スズメバチの警戒音って？

スズメバチの警戒音は、親指の爪と人差指の爪を弾いたような小さな音。刈払機などを使っている場合は、この警戒音が聞こえず、刺されてしまうことがあります。耳を澄まして音を聴くなど、夏・秋の作業前にはスズメバチの巣が畑の周囲にないか、かならず確認しましょう。

スズメバチに刺されたら



万一、スズメバチに刺されてしまった場合も慌てないことが肝心です。適切に対処することで、ハチ毒による痛みや腫れを軽減させます。

STEP① 毒を絞り出す

スズメバチに刺された場合、1～2分以内に爪や指で、または専用の毒抜き器で、血といっしょにハチ毒を絞り出します。このとき、気をつけたいのは、口で吸い出そうとしないこと。虫歯や歯茎から、毒が侵入してしまう可能性があり、とても危険です。

STEP② 流水で冷やす

体内に注入された毒と、血を絞り出した後は、しばらく患部を流水で冷やしましょう（10～15分が目安）。冷やした後に、抗ヒスタミン軟膏を患部に塗り、安静にします。

STEP③ 医師の診断を！

じんましんや発熱、嘔吐、息苦しさなどを感じるような全身症状が現れた場合は、すぐに医師の診断を仰ぎましょう。とくに過去、ハチ刺されによって、じんましんなどのアレルギー反応が出たことのある人は至急、医師の診断を受けてください。

▶小野さんのアドバイス

アナフィラキシーショックとは？

ハチ毒にたいしアレルギー体質の人が一刺しでショック症状に陥り、危険な状態になる「アナフィラキシーショック」。スズメバチがもっとも攻撃的で、注入される毒の量も多く危険

ですが、アシナガバチやミツバチなど、他のハチ類でもショック症状が現れる可能性があります。

刺されてしまった場合、医師の診断を受けましょう。そのときは、一人で車を運転することは避けてください。運転の途中でショック症状が現れ、気を失うこともあり、交通事故など二次的被害の可能性も出てきます。ハチ毒にたいする反応は体質によって異なるので、果樹農家などふだんからハチに遭遇する機会が多い人は、皮膚科やアレルギー内科の専門医に相談しましょう。



▶小野さんお勧め！

片手で毒を吸引できる（仏製）

エクストラクターポイズンリムーバー 3,150円

http://www.tt-techno.co.jp/gyoumu_seihin/10-19.html



『家の光』2012年9月号 畑の情報便